

修学旅行はいつ決まるのか

修学旅行は、いつ頃、どんな手順で、行程は、そして旅行業者はどのようにして決まってくるのでしょうか、中学を例にして、時系列で追ってみましょう。

1 1年生の秋に決まる

(1) 中学1年生の6月頃、関東地区公立中学校修学旅行委員会（略称：関修委）から、2年後の新幹線の配車プランABCが届きます。この中には、実施希望の時期と、出発する日の新幹線の時刻、帰りの新幹線の時刻等が書かれていて、この中から希望するプランを第3希望まで選んで提出します。

- A … 早く出発して遅く帰る。
(東京発 7:47頃、京都着10:05頃／京都発14:02頃、東京着16:20頃)
- B … 遅く出発して早く帰る。
(東京発10:23頃、京都着12:41頃／京都発13:39頃、東京着15:56頃)
- C … Aよりも早く出発してAよりも遅く帰る。
(東京発 7:20頃、京都着 9:35頃／京都発15:05頃、東京着17:23頃)

条件としては、まずは実施時期が学校行事や中間・期末テストとぶつからないこと、家を出発する時間や家に到着する時間に無理がないか、さらに京都駅には何時に着くのか、昼食はどこで食べるのか、見学コースの順番、宿舎には何時に着くのかなどを総合的に判断して決めます。

Aを選ぶ学校が一番多く、Bを希望する学校は、東京駅から遠い学校が多い。Cは、奈良・京都での滞在時間が長いので、見学地をもう一カ所増やせるという利点がある。早朝出発なので、がんばって朝早く起きて始発電車を使ったり、バスで東京駅まで行ったり、帰りは通勤時間帯にぶつかるので東京駅からバスで帰ったり、品川で降りて品川始発列車を使ったりして工夫をしていることが多い。

(2) 1年生の9月頃、関修委から、各校からの希望を調整後の決定通知が来る。これで東京駅と京都駅の出発時刻・到着時刻が確定する。同時に貸し切りなのか同乗する中学校があるのか、一般の人も利用するのかなども決まる。

2 旅行業者が決まるまで

(1) 1年生の2学期、複数の旅行業者から行程表、宿泊プラン、費用が提示される。2社以上から見積もりをとり、学年で比較検討をする。

(2) 2学期末～1月、複数の旅行業者からプレゼンをしてもらい、学年職員と共に、学校長・教頭等も同席して比較検討後、1月中には決定する。

(3) 検討のポイント

- ① 宿舎について
 - ・見学地へのアクセスがよいか。バスが横付けできるか。
 - ・京都に連泊できるか。
 - ・1校単独か、2校同宿か。(単独であれば他校とのトラブルを回避できる)
 - ・生徒を管理しやすい部屋の配置であるか。
(職員部屋は近くにあるか、男女を階段で分けられるか等)
 - ・1度に入れる風呂の規模は大きいか。(蛇口の数がポイント、20個はほしい)

- ② 費用について
 - ・総費用の比較。近年は6万円超が主流であるが、それに見合った適切なサービスが提供されているか。(保護者負担を考えると安い方が望ましい)
- ③ 旅行業者について
 - ・実施校の教育目標や学年の目標・学習の趣旨を理解した上での企画か。
 - ・当日の添乗員の数は適切か。(現地スタッフの数は多い方が望ましい)
 - ・急な変更があったときの対応の柔軟性。関西地方に強いのか。
 - ・事故があったときの会社としての補償の体力があるか。
 - ・学校に出入りする担当者の日頃の熱意。(学年職員の顔を覚えているか等)
- ④ 保護者への説明責任について
 - ・なぜこの業者にしたのかを的確に説明できる根拠を持つておくこと。
- ⑤ その他
 - ・業者のプレゼンの前に、職員が他社の見積もりの情報を漏らしてはいけない。

3 2年次以降の予定

(1) 2年次

- ① 修学旅行費用の積み立て開始(4月～翌2月)
- ② 旅行業者との行程の打ち合わせ開始。
- ③ 教職員による下見
 - ・3年の修学旅行に応援スタッフとして同行し、夜に宿舎の下見をする。
 - ・授業に影響のない時期に下見に行く。(夏季休業中、定期テスト中)
- ④ 学年会で詳しい日程の提案(2学期)
- ⑤ 生徒の修学旅行実行委員会の立ち上げ(2学期末)
(2年次にスキー実習のある学校は、その行事が終わってから本格的に始動となる。)
- ⑥ 職員会議にて詳細を提案(3学期)
- ⑦ 班編成、班別行動計画作成

(2) 3年次

- ① 現地シルバーガイドさんと行程の打ち合わせ開始。
- ② 生徒係別会議、しおり作成。
- ③ 職員会議最終提案(引率職員決定)
- ④ 学年集会(学習会、事前指導)
- ⑤ 修学旅行費用全額支払い(前払いとなる。職員分も)
- ⑥ 前日指導後、生徒の荷物を宅配のトラックで輸送。(翌日宿舎で受け取る)
- ⑦ 修学旅行当日。
- ⑧ 終了後、シルバーガイドさんにお礼の手紙を送る。

 旅行業者にとって、修学旅行を取れるかどうかは、大きな金が動くだけに他社との厳しい競争となる。支店の総力を挙げてプレゼンに臨んできます。ですから学校としても慎重な選択が迫られます。学校としての決定を旅行担当者や支店長を前に告げるときは、つらい時間である。結果を聞いて拳を握って喜ぶ担当者の反面、驚きと落胆の色を隠せない支店長と…。悲喜こもごもです。これには説明責任が伴う。翌年度、担当者が代わりましたというのを耳にすると、複雑な思いが交錯します。